

コモンズとは…労働者農民市民が協働して、国家と私を超えた自治と生産の共同の場を、共につくり合うこと

1commons

●発行所/コモンズ
 ●編集機関紙局/東京都中野区新井2-7-12-25号
 コモンズ政策研究機構内
 ●電話:03-3389-0411 Fax:03-3389-8573
 ●編集/革命21
 ●The Communist Association for Revolution Movement 21
 ●郵送購読料/1部500円 半年2500円(1年5000円)
 ●郵便振替口座/00100-5-391171(コモンズ政策研究機構)
 ●ウェブサイト:http://www.com21.jp
 ●Eメール:rev@com21.jp

日米一体の「敵基地攻撃」明記の「安保3文書」閣議決定

岸田政権のこの国のあり方「戦争国家」へ奪

暴挙

沖繩・南西諸島のミサイル攻撃前線基地化を許さない!

岸田政権が12月16日、国家安全保障戦略などの「安保関連3文書」改定の閣議決定を強行した。改定文書には、戦後の歴代政権が違憲と禁じてきた相手国領内への「敵基地攻撃能力」の保有を初めて明記し、日本が攻撃されないまでも、米国の攻撃が着手されると米国が判断すれば安保法制による「存立危機事態」での集団的自衛権行使で敵基地攻撃が可能となり、「日米が協力して対処していく」と明記された。その具体的要は「沖繩戦の再来」にも通じる沖繩・南西諸島を敵基地ミサイル攻撃の前線基地とすることにあり、3文書改訂は、戦後の「専守防衛」をかなぐり捨て安全政策の根幹を変え、戦後日本の国のあり方を根本から対米隷従の「戦争国家」に変える重大な決定である。日本の針路を大転換させる方針を、国民への十分な説明、国会議論もなく一つの内閣の判断で決めることは、民主主義を根底から破壊する暴挙である。わたしたちは強い憤りをもって糾弾し、閣議決定の撤回を求める。岸田政権の「戦争国家」への暴走を阻止する大きな運動を起そう!

(3文書改訂でミサイル攻撃前線基地と化す沖繩・南西諸島の先取りの実態は2面特集参照)

米軍指揮下で日米一体の「敵基地攻撃」可能に

沖繩・南西諸島のミサイル攻撃基地化のため自衛隊増強

具体的に、3文書改訂の危険な内容を見てみよう。

第1に、「対中戦争」遂行において米軍だけでは中国に勝てない米国の日本への「必死の負担」の強い要求に答えて、中国や北朝鮮などのミサイル増強を脅威としウクライナ情勢を口実に、自衛隊の「敵基地攻撃」を可能とし「日米が協力して対処していく」と踏み切ったことである。

第2は、「敵基地攻撃」実行のために、米国製の長距離巡航ミサイル・トマホーク、「スタンド・オフ・ミサイル」導入計画とその独自部隊の新設。さらに統合防衛ミサイル防衛IAMD「導入も新たに打ち出された。

この陸・海・空・宇宙のあらゆる装備を統合し敵の「敵基地攻撃」を可能とし「日米が協力して対処していく」と踏み切ったことである。

第3は、防衛予算を国内総生産(GDP)の2%と明記し、具体的には27年度までの5年間にミサイルや戦闘機など防衛費を現行計画の1.5倍となる総額43兆円と明記した。

膨大な軍事費増強の背景には、安倍政権時代のFMS(有償軍事援助)によるガラクタ兵器の買い取りのツケ払いの後始末、さらに終焉を迎えつつある資本主義の危機を戦争挑発で延命し、軍需産業が潤う日米産軍複合体の思惑があることも忘れてはならない。

第4は沖繩・南西諸島のミサイル攻撃基地化と結んで本土全体でその前線を担うために、一般の港や空港・公共施設を戦争に使う整備やシェルター建設や避難訓練、輸送のための民間船舶・航空機の動員が盛り込まれ、大多数の国民を犠牲にする戦争への国民総動員体制準備も明記されていることである。

沖繩辺野古不承認訴訟 最高裁「辺野古埋立て訴訟」不当判決糾弾!

新基地建設阻止への沖繩県の上告「門前払い」 国が地方自治体の自治権破壊―憲法違反判決を許さない

12月8日、辺野古新基地建設予定海域の軟弱地盤の存在を理由に、沖繩県が行った埋立て承認の撤回(2018年8月)を取り消した国土交通相の採決は違法として、県が国を相手に採決取り消しを求めた「抗告訴訟」で、最高裁第一法廷(山口厚

裁判長は、県上告を棄却する不当判決を言い渡し「門前払い」した。

最高裁は、埋立て承認・撤回などの処分は、国が自治体に処理を任せ「法定受託事務」で不服に関する審査は国交相が行うと指摘。

国交相の採決に異議を申し立てる権利を県に認めれば「迅速な解決が困難となる」と述べた。

地方自治法などには訴訟を起せる規定はなく「県は訴訟を起せません」とした。

8日、玉城デニー知事は「国の対応の不当性を指摘していたが、訴訟要件を満たさないとの理由で上告棄却となったこと」は、納得できるものではない。地方自治体と国はあたかも上級・下級の関係にあると言わんばかりの判断をしたもので地方自治の観点からも問題がある」と指摘、新基地反対の公約実現に全力を尽くす決意を示した。

そもそもこの問題は、防衛省沖繩防衛局が県による同撤回に対して、本来は私人の権利利益の救済を目的とする行政不服審査制度を防衛局が「私人に成りすまし」て審査請求を行い国交相が19年4月採決で同撤回を取り消したものである。

こうした手法がまかり通れば、国は意に沿わない自治体の行政処分を強制的に覆せるようになる。その意味で、この最高裁判決は、憲法保障された地方自治の本旨を破壊する憲法違反の判決で許すことのできない不当判決である。これは沖繩の問題でなくわが国の地方自治権をまもる闘いである。新基地阻止へ、行動を!

(21060日記)

日本を「守る」ためでなく、米国の戦争の最前線を担うため―血税を絞る大増税と建設国債で再び戦前と同じ道へ

以上、見てきたように、敵基地攻撃能力保有・行使を核心とする大軍拡は、「日本を守る」ためでなく、アメリカの中国との戦争に日本が参戦し、自衛隊が米軍と一体となってその最前線を担い、沖繩・南西諸島のミサイル攻撃前線基地化を軸に「敵」を先制攻撃・全面攻撃するためである。(注)南西諸島の与那国島や石垣島での先行的実態は2面を参照)

重要なのは大軍拡の財源である。

岸田政権と自公両党は16日、閣議決定と同時に2023年度の改正大綱決定に合意し、5年間の防衛費総額43兆円のうち新たに必要となる増額分を捻出すため、27年度までに法人税・所得税・たばこ税の増税で1兆円強の財源確保を決定した。

ここには看過しえない重要な問題が2つある。

第1は、所得税の税率1%を下乗せする新税を創設して軍事費の財源とし、また東日本大震災の復興費のための復興特別所得税の税率を現行2.1%から1%以下に同税率の税収半分

を軍事費に回すという、露骨な復興切り捨てと増税路線である。

東日本大震災による避難者は今なお3万人といわれ復興は進行中で、その予算を軍事費に流用することや、コロナ禍やウクライナ情勢で物価高騰に苦しむ国民への所得増税は、その命や生活破壊に通じる。

第2は、自衛隊の施設整備の財源に5年間で1.6兆円の建設国債を充てる方針である。

これまで政府は、戦前に戦時国債を発行して軍事費を膨張させた反省から、戦後は建設国債を防衛費に充てることではなかった。

すでに一部安倍派の中から声が上がっているように、軍事費の財源確保が思うように進まなければ、赤字国債(借金)の発行に手をつける可能性があるからだ。問題は、防衛費の財源が増税が国債でなく、戦争国家への軍事拡大路線そのものが間違っているのだから、アメリカ隷従の軍拡路線を断念するべきである。

ここが分かれ道 岸田政権の暴走阻止へ、大きな世論と反対運動を!

今、岸田首相は、東アジアと日本の平和を破壊する危険な閣議決定を、新年1月の訪米・日米首脳会談の一手土産にしようとしている。問われているのは、戦争と軍拡のための「戦略」でなく、平和のための「構想」で、不測の事態を防ぐ平和外交への努力である。

岸田政権の戦争と軍拡への暴走は、圧倒的反対世論と大運動で阻止することがかつた道。

全国各地からも抗議の声と行動が始まっている。ここが分かれ道。

心して闘おう!

(12モン編集部)



挑発で延命し、軍需産業が潤う日米産軍複合体の思惑があることも忘れてはならない。

鹿児島
— 沖繩

南西諸島民の戦時体制

絶対反対への熱い意志

自衛隊「戦闘車」が公道を走る与那国島。米海兵隊密かに駐屯地に合流—準戦体制が突如強行された!!



の会見の中では与那国島という文字はなかった。これまで16年間米軍だけは入れないと言っていた町政から一転して、一気に米軍受け入れ承諾という重大な決定をしたわけだからその経過と、その判断理由を住民や議員に語るべきと申し出た。それに対して町のホームページでは、この件に関する問い合わせは自衛隊幕僚長であるとして、町は一切あずかり知らないこと、国がやることだという態度を見せた。

11月2日防衛省は新たに機動戦車を公道に走らせると発表をし、マスコミの話題はそちらの方に吸い寄せられた。

米軍は11月5日にヘリコプターで駐屯地に10数名降りたということが明言された。

米軍が来た方が重大事であるのに一切報道はなかった。今回のこれら一連のことを通じて、戦車などがいつでも公道を走れると言う事態になったし、米軍

「オールド沖繩会議」は12月3日、米軍キャンプ・シユアアゲート前で、島民大行動を開催。豪雨の中について600人が参加した。

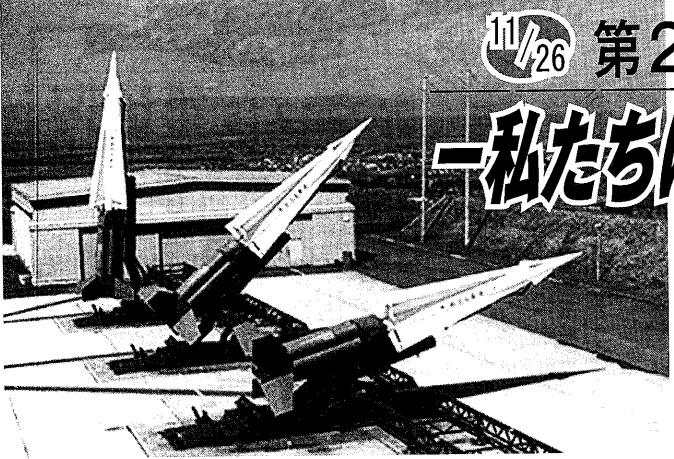
冒頭、米国会議の上野院軍事委員会に所属する議員たちに、辺野古新基地中止に向けて動いてほしいとする書簡を送付。キャンペーン取組みが紹介された。

この運動では連邦議会に影響力を持つ市民団体や州議会議員、副市長ら50人が賛同してくれる。新基地中止への米国内での着実な広がりが確かめられた。

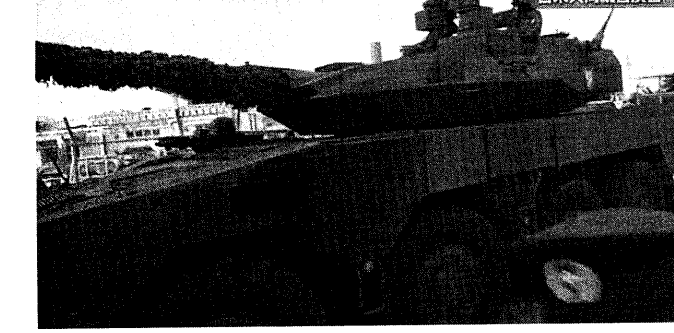
挨拶に立った泉議員と党会派代表者から、自公両党

第2期島々シンポジウム 緊迫する石垣島・与那国島

私たちは2022年度内のミサイル基地化開設を阻む!



日米共同統合演習を口実と与那国島に上陸した、機動戦闘車(下)～米海兵隊



上記テーマで、沖繩南西諸島に住む島民が連帯し今年内のミサイル基地化を阻むとの強固な意志を確認しあうWebサイト連絡会議が11月26日、現地島々と東京各地を結び開催された。会議ではその数日前に与那国島に強行揚陸された戦闘車、白屋堂々島民を威嚇するかのよう基地にまで、しかも公道を走行する写真パネルも公開され衝撃を与えた。さらにこの動きにかくられるように米軍海兵隊が何らの告知もなしに島の駐屯地に合流配備された。

これら日米軍事連合が密かに進行する事実を本土マスコミは一切スクープしないという異常な時代状況のあり様が島民の証言で裏付けられた。

<2022年度内の石垣島へのミサイル基地開設を強行しようとしている自衛隊—今年末の「防衛計画の大綱」などの大改定に向かって無謀極まる大軍拡(防衛費2倍化)計画を打ち出し、石垣島配備予定の地对艦ミサイル射程の1500キロや、超高速滑空弾の射程1000キロ、さらには「敵基地攻撃能力」をもつトマホーク保有・配備さえ主張し始めた。日米軍産層主導で「台湾有事」が声だかに叫ばれる中、石垣島では、シェルター設置さえ唱え始められた。島の住民の命を全く軽視した、政府の戦争態勢づくりを私たちは阻む。—石垣島の住民たちの与那国島の住民たちの声を聞こう!>

分断され、沈黙を強いられた島から
—与那国島・山田和幸氏

（6年前に移住し、木材工芸を島人たちが営む）
沖繩県で初めての事例とかの場合に写真を撮りに来ると言った。メディアは興味本位でしか島に来ない。

住民が述べると総じて「不安です」という言葉は、本音では嫌いなこと。反対しますとか困りましたかとはなかなか言えない現実。

訓練養成派は声高ではあるが、与那国は自衛隊の駐屯によって分断された島であると言われるが、実は「沈黙を強いられた島」だと言いたい。

急転する状況が何も分

今期が2期目となるこの島々シンポジウムには、沖繩本島から離れた平和な日々であった島々に突如自衛隊、さらに米軍という強大な武装部隊が何ら合意形成のない前に実戦配備されるという緊急状況の様子と、これに抵抗する島民の生の声が集積されている。そんな一触即発の準戦体制に巻き込まれる、まさに台湾有事の際の最前線地帯と化すること必然の南西諸島を代表し、当日は各島から切実なアピールの声が続いたが、その主な意見をここに紹介する。(編集部)

そこで八重山毎日新聞と沖繩タイムズ、琉球新報などマスコミに情報を流した。

米軍が与那国島に駐屯と報じたのは6日後の八重山毎日新聞だけ。

島民の承諾なしに、島の町長が上京時、秘密裏に承諾したと思われる。20日の合同委員会文書に続く21日の統合幕僚長

石垣島命と暮らしを守るおぼあちの会の皆さん

（反権力人権賞受賞の方もグループ内にいる）

●なぜ今回、与那国島に上陸させた機動戦車をわざわざ狭い公道に走らせたのか。

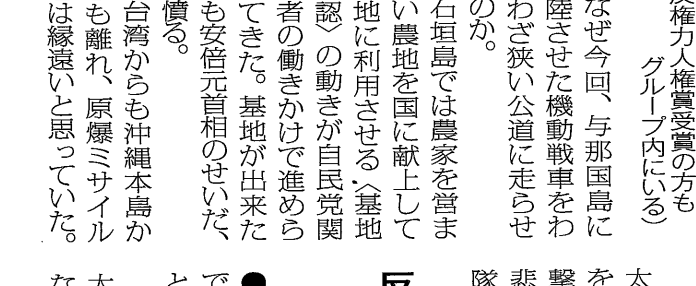
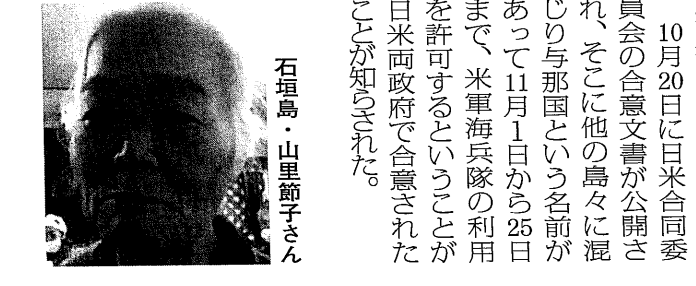
石垣島では農家を営まない農地を国に献上して基地に利用させる「基地容認」の動きが自民党関係者の働きかけで進められてきた。基地が出来たのも安倍元首相のせいだと憤る。

●台湾からも沖繩本島からも離れ、原爆ミサイルとは縁遠いと思っていた。

この流れに抵抗していくような運動を展開できれど思っている。防衛省自体が、有事の際住民を救うことは不可能だと明

ミサイル攻撃前線基地と化す琉球列島
—軍事評論家 小西誠氏

●現在、宮古・石垣・奄美とわたってミサイルが配備され、2年以内にはまた強大ミサイルが配備されようとしている。琉球列島を盾にする形であったのがこれからは、ここを攻撃拠点にする長距離ミサイルを配備して行く。年末に策定される安保3文書は国民の議論もすり抜け、43兆円の軍事予算が計画されようとしている。その中身はほとんど敵基地攻撃能力一辺倒のミサイル量産化が中心で、高速滑空部隊他で5000kmという射程ミサ



山田和幸氏
石垣島・山里節子さん

山田さんのご報告の中で、沈黙を強いられた島と言った表現に胸が痛む。石垣島も似た状況で太平洋の小さな島に大きな国という権力の壁が押

山田さんのご報告の中で、沈黙を強いられた島と言った表現に胸が痛む。石垣島も似た状況で太平洋の小さな島に大きな国という権力の壁が押

しかけてきて、島そのものを金縛り状態にしてしまっている。

だが権力の言いなりにならない意思のある沈黙こそが、このような戦争

沖繩短信

オール沖繩会議12/3 シユアアゲート前で 島民大行動 辺野古新基地建設の即時中止訴え



岸田政権 原発政策危険な大転換へ

老朽原発の圧力容器はいつ破壊されてもおかしくない ～一瞬で破壊される「脆性破壊」の恐ろしさ～

運転延長は原発の危険度を上げるだけ

山崎久隆
たんぼ舎共同代表

【編集部注】経済産業省は有識者会議「原子力小委員会」で、岸田首相の指示を受けて検討してきた原発活用策の行動計画案を提示し、大筋で了承された。原則40年、最長60年と規定された原発の運転期間については、審査などで停止した期間を運転年数から除外し、60年を超える運転に道を開く。廃炉が決まった原発を対象に、次世代型原発での建て替え（リプレース）を進める方針も打ち出した。東京電力福島第一原発事故後、原発依存度の低減を掲げてきたエネルギー政策が大転換を迎える。そこでこの原発政策の大転換のもつ危険を訴える「たんぼ舎」通信（11月25・26日号）より山崎さんの論考（要旨）を紹介する。※要旨や中見出しは編集部責任

老朽原発の40年超運転の問題点 — 原発圧力容器の構造

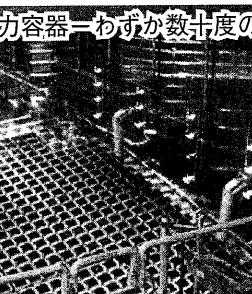
老朽原発の40年超運転は、圧力容器の破壊を懸念しなければならぬ。原発で最も堅固な装置とされているのが、原子炉圧力容器。沸騰水型軽水炉（東海第二や福島第一原発など）では、通常使用圧力約70気圧、冷却材温度約280度で、加圧水型軽水炉（美浜や高浜など）の場合は更に過酷で約157気圧、約320度である。このうち加圧水型軽水炉では、直径3m、高さ3・6mほどの鋼製圧力容器に燃料体を157（89万キロワット）体入れて運転している。圧力容器の中はほとんど燃料であり、制御棒駆動系は真上の上蓋に、中性子計測計のケーブル類やそれを運ぶ管は真下にあり圧力容器と燃料体の間には隙間はほとんどないので、強力な中性子がそのまま圧力容器にも当たる。一方、沸騰水型軽水炉では、圧力容器には再循環用ジェットポンプやポンプが取り付けられていて、圧力容器と燃料体の間には距離がある。そのため沸騰水型軽水炉では中性子の照射量が加圧水型軽水炉に比べて少ない。割れてしまう破壊の仕方を

「脆性破壊」といって、温度が低いときに起きる。「延性破壊」の温度範囲と「脆性破壊」を起す温度の境目を「脆性遷移温度」と

原子炉圧力容器の「脆性遷移温度」

原発の場合、圧力容器の「脆性遷移温度」は中性子の照射量で変化する。中性子が圧力容器鋼材を照射すると原子配列に欠陥が生じ、金属が脆くなる「脆化」を起す。結晶中に欠陥クラスターができるため、これが金属特有の粘り強さ（靱性）を妨げるのである。中性子照射で変化するの

「脆性遷移温度」は99度。現在、40年を超えた原発の内、加圧水型軽水炉では美浜原発3号機が再稼働し、さらに2号、高浜1、2号機が再稼働の準備を進めている。既に40年を超えており、「脆性遷移温度」がどのくらいまで上がっているのか懸念されるのだが、試験片を随時取り出して調べることができず、



脆性（もろさ）の進む圧力容器—わずかに数十度の熱で破壊の危険が膨大である。

60年超の運転目論む 経産省の異常どこまで

さらけ出した。60年を超えても動かし続けられるように制度を変えようという目論みは異常を通り越している。止めなければ、福島第一原発事故以上の事故が起きる。40年を超えた美浜3、高浜1、2、東海第二は、日々劣化を続ける老朽炉の中でも特に劣化が進んでいる。圧力容器だけでなく、格納容器、電源ケーブル、コンクリート材、配管類。老朽化したら交換すれば良いというのは、予め交換できるように設計施工されたものに限られ、取り替えのきかないものも多数ある。そもそも劣化が進んでいるか把握できていなければ、破壊されるまで交換できない。

11/4
**関西電力・高浜4号
原子炉の再起動強行
がぞんばる原因究明**

原発全基・再稼働に執念見せる関西電力

●11月4日未明、関西電力は何らの事前告知なく高浜原発4号原子炉起動を強行した。この暴挙に対し同原発の危険性を長らく指摘し、その反対運動を続けてきた（美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会））は、即日下記の抗議声明を出した。その内容は「蒸気発生器細管損傷、加圧器逃がし弁損傷、非常用ディーゼル起動不能。重要設備で事故を続発させながら、全て極めてずさんな原因究明と対策で幕引きを容認する。自公政権・原発村に連なる産官学関係者らの責任を痛烈に問う憤激に満ちた問責文書ともいえる。

【抗議声明】高浜原発4号の原子炉起動に強く抗議する

蒸気発生器細管損傷、加圧器逃がし弁損傷、非常用ディーゼル起動不能
重要設備で事故を続発させながら、全て極めてずさんな原因究明と対策で幕引き

関西電力は11月4日未明に高浜原発4号の原子炉起動を強行した。高浜4号はこの間、安全上極めて重要な設備で事故を続発させている。7月8日に高浜3・4号で6回連続となる蒸気発生器（SG）細管の減肉損傷事故。原子炉起動しようとしていた10月21日に加圧器逃がし弁の出口温度が高温となる事故。そして同30日、高浜4号用でもある同3号の非常用ディーゼル発電機が起動不能となる事故を起した。通常であれば運転再開を中止した上で、原因究明と対策を徹底するのが当然だった。しかし、全てまともな調査もしないまま原子炉を起動した。運転を最優先させる、関電の変わらぬ安全無視の行為に強く抗議する。

関電は、加圧器逃がし弁の出口温度が上昇したのは、弁の分解点検時に部品（弁体と弁座）間に異物が入って部品に傷が付き、生じた隙間より加圧器内の蒸気が流れ込んだためと推定した。その上で、今回事故を起した部品を取替え、異物管理の注意事項を追加するという対策を出しただけで終わりにした。

しかし、関電はこれまでも同様の事故を加圧器安全弁で起こしており（2005年1月大飯1号同年10月美浜1号）、その度に異物管理を強める対策を出している。連続する蒸気発生器細管減肉事故でも異物管理徹底を対策としてきた。それでも今回このような事故を起こしたことは、関電のずさんな安全管理の体質が変わっていないことを如実に示した。

非常用ディーゼル発電機は、内部の油潤滑をする時に取り付ける機器（ターニングギア）が外れなくなり起動不能となった。固着していたというターニングギアは取り外したものの、関電は「今後、ターニングギアの詳細点検を実施し、原因調査を行う」としている。この油潤滑は原子炉運転中も5日に1回行うとされている。原因不明のまま原子炉を動かしてはならない。

連続する蒸気発生器細管減肉事故の原因も不明なままだ。堅いスケールでも細管より堅いものは極わずかである等々、スケール原因説は根拠薄弱である。

再び減肉事故を起こす可能性は極めて高いと言わざるを得ない。減肉が細管を貫通する危険性もある。関電は、蒸気発生器細管破損事故が起き、1次冷却系の水が2次冷却系に漏えいした場合、加圧器逃がし弁を開いて1次冷却系を減圧するという重大事故対策を立てている。今回の加圧器逃がし弁の事故も考慮すれば、減肉事故再発の可能性が非常に高い状態で運転することは到底されない。関電は、高浜4号の運転を即刻停止すべきだ。

規制委は、今回6回目の細管減肉事故も新しいタイプではないとして軽視し、関電の事故報告書を受け取るだけで、自らの評価を出さずまま運転再開を認めている。加圧器逃がし弁と非常用ディーゼルの事故も何ら問題にしていない。無責任極まりない。規制委は高浜4号の運転を直ちに停止させ、その上で相次ぐ事故について徹底した原因究明と抜本的な対策を行わせるべきだ。

2022年11月4日
美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

2004年8月9日（長崎原爆の日）であることは象徴的、関西電力美浜原発3号機の二次系配管が突如破断し、定期検査の準備作業が入った。膨大である。停止直後で、熱出力の2パーセントもの熱量があり、89万キロワットならば3万5千キロワットもの熱量が残っている。冷却が出来なければメルトダウンは避けられない。これら原発は危険すぎてECCSを作動させられない。こんな危険な原発を、60年も動かすことを認めてしまふ異常な国が日本である。

60年超の運転目論む 経産省の異常どこまで

さらけ出した。60年を超えても動かし続けられるように制度を変えようという目論みは異常を通り越している。止めなければ、福島第一原発事故以上の事故が起きる。40年を超えた美浜3、高浜1、2、東海第二は、日々劣化を続ける老朽炉の中でも特に劣化が進んでいる。圧力容器だけでなく、格納容器、電源ケーブル、コンクリート材、配管類。老朽化したら交換すれば良いというのは、予め交換できるように設計施工されたものに限られ、取り替えのきかないものも多数ある。そもそも劣化が進んでいるか把握できていなければ、破壊されるまで交換できない。

2004年8月9日（長崎原爆の日）であることは象徴的、関西電力美浜原発3号機の二次系配管が突如破断し、定期検査の準備作業が入った。膨大である。停止直後で、熱出力の2パーセントもの熱量があり、89万キロワットならば3万5千キロワットもの熱量が残っている。冷却が出来なければメルトダウンは避けられない。これら原発は危険すぎてECCSを作動させられない。こんな危険な原発を、60年も動かすことを認めてしまふ異常な国が日本である。

膨大である。停止直後で、熱出力の2パーセントもの熱量があり、89万キロワットならば3万5千キロワットもの熱量が残っている。冷却が出来なければメルトダウンは避けられない。これら原発は危険すぎてECCSを作動させられない。こんな危険な原発を、60年も動かすことを認めてしまふ異常な国が日本である。

著者 石渡博明 (安藤昌益の会)

発行 花伝社 (定価2500円)

新著紹介 『安藤昌益再発見』

現代によみがえる「いのちの思想家」

多様性とエコロジーの時代を先取りした江戸期の巨人、その思想のエッセンス

伝統的・土着的でありながら、時空を越えたスケールと普遍性を持ち 21 世紀においても時代の先行者たりうる思想家、安藤昌益。深まる昌益研究の最新動向を踏まえ、自然哲学、平等論、歴史観、平和思想など多彩な切り口から昌益思想の核心に迫る。戦争と災害の時代を乗り越える叡智がここにある



1703年(元禄16年)11月29日(宝暦12年10月14日)。江戸時代中期の医師・思想家・哲学者・革命家。秋田藩出身。通称は孫左衛門。思想的には無神論やアナキズムの要素を持ち、農業を中心とした無階級社会を理想とし近代日本に先駆けた社会主義の人物として評価を受ける。

解説 安藤昌益(あんどうしやうぎ)とは?

「安藤昌益の会」は、1998年3月寺尾五郎さんやいいたもさんたちを中心に結成された組織です。著者の石渡さんは、会の事務局長として両氏が亡くなった後も、現在に至るまで八戸、千住など昌益ゆかりの地域の市民団体や市民運動と連携しつつ、さまざまな集會やイベントを企画。

読者の皆様へー2022年冬季カンパのお願い

真つ当な社会実現への「真の理論・情報紙」として

2022年は、後世が「なせ」と言いつに違いない、多くの愚かしい事柄のみ積み重なった年になってしまった。それらもまた歴史を塗り替える重大事象の日々であった。そんな年であったと感ずけられませんか。

「開く」が先である。岸田総理は国民の声を聞かず、「防衛」を強硬に「安倍」以上のスピードで増税を「閣議決定」。

また、政府が推し進める「マイナカード強制」、その「預貯金口座紐づけ」は、有事になれば資産凍結し没収を容易にします。この「戦後」が「なせ」と言いつに違いない。民主主義が崩壊してしまっている。戦後準備の足音を伺いませぬ。

分たりの給料を「また」上げる。開いた口がふさがらないとは、正しくいいます。今こそ賢明なる政治世界の出番である。元宰相が銃弾に撃たれた日から露わになった醜い政治と宗教の癒着。それがこの国を歪め、いかにおぞましい戦後歴史を生み出して来たか。自公(保守・カルト)合同政権は、何らの反省的態度が無く今日が繰り返す。

政治的主権がこのまま醜態な自公守旧層に差配されたままなのか、それとも新しい世界を希求する人々の手に移ろうとするのか?との視点から見れば、政府の「辺野古新基地推進」に真つ向から挑む玉城知事と、これらを支え支えるオール沖縄の闘いで7月参院選

東京短信

12/1意見交流会
【報告・乱鬼龍】 いわゆる「反原連」が毎週金曜日、首相官邸前で続けられてきた反原発行動を休止した後、その「反原連」に代わって声をあげ続けようとする有志が声を掛け合っており、新たな形で開始された「第3金曜日首相官邸前行動」は、1年半ほどの節目の中、12月1日(木)「たんぼ舎」にて



「たんぼ舎」にて
「伊方原発を動かすな!」の旗を掲げ、大勢の参加者が集まり、意見を交換した。

2022年、年の瀬に走る

何となく時代状況になってきたのだという思いが強まる年の瀬。軍拡増税、統一教会、原発...世の中がもう滅びの道を急速に転がり落ちるような感、深い。12月24日(土)「レイバー」本気、ホノモノの知恵を、行動を、全身を求めて、日々の行動を続け、そしてついでに(12月12日)月曜夜(乱)

編集室から

サッカー日本代表の躍進を熱狂的に報道し、「防衛費のための増税を自然現象かのように連日垂れ流すメディア。命がけで国歌斉唱を拒むイランの選手や、ひざをつけて抗議するイングランドの選手とは違い、人権問題に触れないからとカタルから応援される日本。人権監視と軍拡路線は共に進むべき諸外国から孤立する破滅の道ではない。頼むからその無駄な熱狂的エネルギーを少しでも対話と外交のために割いて欲しい。(東京)

乱鬼龍

軍拡増税 破綻の道は すでに見え
停戦せよ 冬將軍の 声厳し
原発に また大事故が 足らぬらし
宗教は アン 今こそと来る
今年また あきれかえつたまま くれる

コモンズ取扱店

- 群馬 ●三光書店 伊勢崎市大手町2の15
●神奈川 ●中原ブックランド 川崎市中原区小杉町3の1
●東京 ●書泉クラブ 千代田区神田神保町1の3
●模索舎 新宿区新宿2の4の9
●愛知 ●豊川堂カルミア店 豊橋市花田町西宿無蓋地
●福岡 ●ウニタ書店 名古屋市中区今池1の6
●今池スタービル 052(731)1380
●丸吉書店 美濃加茂市太田町2535の1
●香川 ●讃州書店 高松市松島町2の1の9
●福岡 ●金修堂 福岡市中央区草香江2の2の7
●沖縄 ●ブックスじのん 宜野湾市真栄原2の3の3